

「鋸山」日本遺産認定推進協議会 第2回会議

1 会議の名称	「鋸山」日本遺産認定推進協議会 第2回会議
2 開催日時	令和2年1月10日(金) 13時30分～15時00分
3 開催場所	鋸南町中央公民館 講座室
4 審議等事項	議題 (1)「鋸山」日本遺産申請内容(案)について
5 出席者名	会 長 高橋恭市 副会長 白石治和 委 員 阿部淳一郎、坂本秀則、飯田 浩、平野幸男、 高梨 正、松本 孝、鈴木裕士、手寫光行、 川名 修、手塚 節、藤井元超、山口治一 オブザーバー 星野宏子、羽山 篤、杉森英一、寺元敏光、 平島和夫、山本晴敬、大塚克也 事務局 富永安男、笹生忠弘、當眞嗣史、福原規生、 笹生浩樹、伊藤伸久、桐村修司、佃 沙奈、 金木佑天
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人(定員10人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 文化係 電話 80-1342(2342)
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
(富) 富眞 生涯学習課長	<p>皆様、こんにちは。 定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日はお忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日の進行は、富津市生涯学習課長の富眞が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>会議の公開について説明させていただきます。 本会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定により、「公開」となります。このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきます。また、会議録作成のために録音させていただきます。</p> <p>それでは、ただいまから、「鋸山」日本遺産認定推進協議会第 2 回会議を始めさせていただきます。</p> <p>はじめに、「鋸山」日本遺産認定推進協議会会長の高橋富津市長より、挨拶を申し上げます。</p>
高橋会長	<p>皆様、こんにちは。あけましておめでとうございます。</p> <p>本日は、公私ともに大変御多忙の中、「鋸山」日本遺産認定推進協議会第 2 回会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>昨年 5 月に富津市と鋸南町に跨る鋸山の魅力を国内外に発信すべく、日本遺産の認定を目指して推進協議会を立ち上げて以降、今日まで、富津市・鋸南町ともに力を合わせて準備を進めて参りました。</p> <p>そのような中、昨年は、台風 15 号・19 号がこれまでに経験したことがない大被害をもたらしました。富津市・鋸南町ともに未だ家屋にブルーシートがかかっている状態であり、復興の道はまだ道半ばであると感じた次第です。日本遺産認定を目指す鋸山も大変な被害を受けました。地元の皆様、全国から好意を寄せてくださったボランティアの皆様の力もいただきながら徐々に復興の道を進んでおりますが、それもまた同じく道半ばであります。</p> <p>両市町ともに復興に向けて取り組んでおりますが、私たちの悲願である鋸山の日本遺産認定が、復興への大きな足掛かりになるという気持ちでこの事業を進めて参りたいと思います。</p> <p>1 月 24 日の申請締め切りに向けてラストスパートに入ってきました。鋸山の日本遺産認定が、富津市と鋸南町の魅力をさらに高める起爆剤になることを期待し、開会の挨拶に替えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>

<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、副会長の白石鋸南町長より御挨拶申し上げます。</p>
<p>白石副会長</p>	<p>御紹介に預かりました、鋸南町長の白石です。 本日は、先人が延々と築いてきた遺産をどうしても日本遺産に、という強い想いを持って会議が開催されると思っております。 かつて経験したことのない台風被害もありましたが、それに対して鋸山は人が作ったものであり、人がもう一度作り直す。それを後世に残していきながら、資源としても使わせてもらう、というビジネスライクなお話になります。 しかし、そう思うだけでは困ります。やはり、地域の住民に根差した形での遺産の遺し方を考えなければならないと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、前回5月21日の第1回会議の後に委員の変更がありましたので御紹介いたします。 オブザーバーの鋸山ロープウェー株式会社代表取締役が金子様から杉森英一様に変更になっております。</p>
<p>オブザーバー 杉森</p>	<p>鋸山ロープウェー株式会社の杉森です。よろしく願いいたします。</p>
<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>続いて、鋸南町教育長の富永氏を御紹介いたします。</p>
<p>(鋸) 富永 教育長</p>	<p>皆様、こんにちは。鋸南町教育長の富永と申します。 鋸南町の事務局の一員として参加させていただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>続きまして、次第3「議題」に入ります。 会議の議長は、「鋸山」日本遺産認定推進協議会規約第8条第1項の規定により、「会長が招集し、会議の議長になる。」とありますので、高橋会長に議長をお願いいたします。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。御協力のほどよろしく願いいたします。</p>

議題に入る前に会議録署名人を決定したいと思います。
委員の皆様にお諮りいたします。どのような方法で決定したらよろしい
でしょうか。

(意見なし)

高橋議長

私から指名してよろしいでしょうか。

委員一同

(異議なしの声)

高橋議長

御異議もないようですので、山口委員、松本委員にお願いいたします。

それでは、議題に入ります。

議題(1)「「鋸山」日本遺産申請内容(案)」について、事務局より説明
願います。

(富)伊藤生涯
学習課長補佐

それでは、私から、「鋸山」日本遺産認定推進協議会事業計画(案)につ
いて御説明いたします。

5月21日の前回会議から振りかえります。

資料の様式1-1『当初案』をご覧ください。これは、前回会議のとき
の状態です。この状態で文化庁に伺ったところ、「かなり平均的な内容で
す。ここから認定にピックアップされるためには、枠内から頭抜ける必要
があります。」というコメントをいただきました。

具体的なアドバイスはいただけず、ただ内容を見て平均的と言われたの
がこの当初案です。

これがどのようにレベルアップしなければならないのかを学ぶため、両
市町の代表委員と代表事務局で8月に、大谷石で日本遺産に認定されてい
る栃木県宇都宮市を訪問しました。そこで事務局のお話を伺い、どのよう
に申請されたかを学びました。その際、「具体的に観光客目線である必要
がある。あまり専門的な内容に終始してはいけない。」というアドバイ
スをいただきました。

改めて当初案を見ると、特にストーリーで構成文化財を引き立たせよう
とするあまり、かなり字面の多い内容になっております。「中学生や高校
生、何の知識もない人が読んでわかるような内容が望ましい。」と後に文
化庁の方からもありました。

それから、金谷ストーンコミュニティ主催「第11回金谷・石のまち
シンポジウム」で小松市と小豆島町の方から細かいアドバイスをいただき
ました。申請そのものだけでなく、俗に言うロビー活動のようなものも必
要とのことでした。

具体的なアドバイスを参考にしながら、12月に鈴木委員のもと、ワーキンググループを開催しました。12月中に3回開催し、私たちの持つ課題について話し合いました。

また、12月に新しい素案を持って文化庁へ伺い、最新情報をいただきました。当初、私たちが県から伺っていた、「なるべく受けの良いキャッチーなタイトルと内容。本文はあまり見ないので、インパクトのある写真が良い。」というアドバイスを基に当初案を作成しましたが、新たに方針が転換されるアドバイスをいただきました。

「2020年度が日本遺産申請の最終年度です。オリンピックイヤーに合わせて100件選定し、それを国内外に発信する、という目的がありますが、初年度に認定された自治体の調査を行った結果、地元の組織化がされていない。認定の幟（のぼり）が立っているだけという現状を目の当たりにした。場合によっては認定取り消しもあり得る。」というお話をいただきました。そのため、認定委員会の選考基準が現実的な方向へシフトされました。

つまり、ストーリーもさることながら、3年間の補助事業、補助金が無くなった後の3年間、計6年間の事業計画を据える必要があります。特に、補助金が無くなった後の3年間の継続的な地元の活動に注目が集まります。

ワーキンググループでは、如何に事業化が可能か、日本遺産を使った魅力の掘り出しとPR、自立可能な経済活動に進展させる必要があることから、事業計画を立てることを目標にしました。ワーキンググループ第2回目までの意見を集積したのが、『南房総日本遺産申請に係る検討シート』です。日本遺産の文化的要素をピックアップしてまとめ、それを既存の価値体系で並べ、そこから見出される新たな価値体系を事業化していく、という流れで考えました。

これを基に、『日本遺産を通じた地域活性化計画』を作成しました。

認定委員会では、これを厳しく審査するとのことでした。これを主眼にワーキンググループで話し合いました。

本日の会議の目的を先に申し上げます。

ワーキンググループ第2回目の際、最後の一分一秒に至るまで齧りつくように修正する姿勢で進めていく、ということを確認しました。そのため、当会議だけで完成させる方向ではなく、少しでも修正すべき点があれば意見を言い合い、諦めずに作成していくものであることを御理解ください。

本日の会議で、最終的に御確認いただきたいことがございます。ストーリーについて、最後の最後まで皆様の御意見を取り入れ、修正しながらより良い話にまとめていくことを主眼にしております。そのうえで、事務局とワーキンググループで練り上げますので、一任していただけるか決をいただきたく思います。

事業シートに戻ります。ピックアップした要素を「地域活性化の取組の概要」に図化しております。様式1-1が表紙の資料の最後のページにあ

る、検討シートの中の要素をピックアップしたものです。

この図は、「鋸山・房州石」という、両市町にまたがる文化資産の要素を「山」と「海」、「ひと」と「まち」に分けてまとめたものです。「山」は産業遺産についてですが、男性が石を切り出し、女性がそれを麓まで運ぶ男女共同の仕事だったことなどを検討シートの構成要素から拾い上げ、まとめました。

このように魅力を再構築したものを旅行者に発信・伝達する体制を構築しなければならない。それから、文化資源活用を促進するプログラムを構築しなければならない、ということをお細かく文章化しております。

2枚目を御覧ください。

どのようなストーリーにすべきかをまとめております。「地球の恩恵」、「日本寺の建立」、「源頼朝再起」、「文人墨客と浮世絵」、「江戸庶民の観光地」、「地域の房州石」という分類をして組み立てる。これは、ワーキンググループからのアドバイスです。これを基にストーリーを構成し、実現するための事業を書き連ねております。

既存の事業・魅力だけでなく、新たな魅力を発見しながらPRしていく。できれば、PRしていくことを生業にして生きることも視野に、事業の一つとさせていただきたい。

「(3) 自立的・継続的な取組」を御覧ください。晴れて認定された際には、当協議会は「活用推進協議会」に変わります。そこで検討しながら、実際の事業の進め方について協議します。オブザーバー・アドバイザーの方々の御意見等をいただきながら進めていきます。

実際に事業化してお金を投じて行わなければならないものですから、ここからが本番だと考えます。

「(6) 日本遺産魅力発信推進事業」に事業費を記載しております。認定された場合の上限額が、初年度4000万円、次年度2000万円、3年目は1000万円です。

昨年度まで補助率100%でしたが、今年度から通常並みの補助制度にシフトしております。50%でスタートし、地元で実現可能なプランなのか、協議会をしっかりと運営できるかを加点制で審査し、上限は全体の3分の2になります。ですから、今年度に認定されたところは予算措置を取っていませんでした。非常な慌ただしかったことが想定されます。3分の1の予算を用意しなければなりません。これから先のプランを考えるにあたり、稼げる体制を目指し、地元が自立可能な方向に向かわなければなりません。

様式4（別紙①）を御覧ください。

策定目標についてです。これもシビアに審査されます。

「観光客入込数」に外国人観光客数を盛り込むことが必須です。外国人観光客数の正確なカウント方法も考えなければなりません。実際、金谷の方々は実感していると思いますが、海外の情報媒体で鋸山が多く取り上げられています。それを具体的な数字で示すのは困難ですが、現状、令和2

年度の目標値を 100 万人としています。大雑把な数字ですが、現実から乖離した数字ではありません。金谷地区の鋸山ロープウェイでは、毎年の入込数を通してカウントしています。鋸山自動車道や徒歩で鋸山を訪れる方を含め、また、鋸南町の元名地区などの目標値を合わせて 100 万人というのは、あながち間違った数字ではないと考えます。そして、それを 25% 増やすことを目標にしております。

次に、「地域文化を誇りに思う住民の割合」です。これはまだ予想値です。

「日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立」ですが、ここが最も審査される部分と思われます。地域活性化活動を行う団体の数を現状の 58 団体から 72 団体にする。これも精査し、申請までの 1 週間うちに固めていきます。

では、これを具現化するためにどのような事業を行えばよいのか。

様式 4（別紙②）の「(6) 日本遺産魅力発信推進事業」が補助金による事業です。初年度 4000 万円での事業をピックアップしております。持続可能な体制が審査されるので、それを担う「人材育成」を事業①にしております。

実際に行っている有償ガイドツアーを表に出したらよいのではないかと、というところです。

次に、「ホームページや統合型パンフレット・広告等作成事業」は、インバウンドを視野にした場合に多言語化が必要になるので、そのようなワードも必須と思われます。

現時点での事業について、皆様の御意見をいただきたく思います。

「(7) その他事業」には金額がありませんが、13 個の事業を挙げました。現在、主に鋸山周辺で民間が行っている事業をピックアップしました。既に民間が先駆けている部分を表に出しています。最初の情報と違い、このような細かい部分を隅々まで委員の方々は審査している、という情報をいただきました。これが基本だと考えます。

我々が把握できているのは主に金谷側の事業ですが、鋸南町のガイドの方々の事業をさらに盛り込んでいきます。当然、両市町共同で旅行者のガイドをする事業がその先にあるかと思えます。協議会等で検討しながら組み立てなければなりません、それを読み取れる事業内容の記載が必要です。

最後にこれらの事業をまとめ、ストーリーに反映させる作業を行います。

先ほどの『当初案』を御覧ください。

5 月の会議以降、各方面からいただいたタイトル、内容についての意見を載せています。本日の主眼は、皆様の理念のもと、忌憚のない御意見をいただくことです。切実にお願い申し上げます。

前回のタイトルA案は、鋸南町の前館長からいただきました。B案は、キャッチーな言葉が必要と思い、私が考えたものです。

「ストーリーの概要」のBは、タイトルB案を若干改変したものです。現状はB案を一番に出していますが、A・B・Cの副題「～大仏・羅漢石像群と石切場跡の産業遺構～」は、現在の日本寺を中心に鋸南町で県の名勝に指定されているタイトルそのものです。それを使わなければならないと考え、そこから離れずにいましたが、日本遺産には、文化財的な構成要素も重要ですが、あくまでも構成要素であり、それらを活用して魅力を発信しなければなりません。それも含め、鋸山を中心とした両市町全域に及ぶ、インパクトのある内容にしなければなりません。

Dのストーリーの概要は、具体的な景色が盛り込まれ臨場感があります。観光客目線を打ち出した内容です。

Fは、「お父ちゃんとお母ちゃんが造り出した和製グランドキャニオン」です。カタカナが入った場合、「ネイティブスピーカーがそれを聞いたときにどう思うかを考えてほしい。」という意見もありました。また、このタイトルには石切場しかイメージされないため、魅力はあるものの全体的なものを象徴したタイトルにはなっていません。

Gの「もうジゴクのぞいた？」は、地元のガイドブックに使われている文言です。その案を持って文化庁に伺ったところ、「あまり突飛なタイトルはிரらないのではないか。タイトルにはこだわらず、重要なのは中身だ。」というお話をいただきました。

それを受けて作ったのが、Hの「房州物見遊山の聖地は石の山」です。視点としては、宗教色や産業色などの様々な要素がありながら、鋸山は自然の博物館であり、テーマパークでもある。そのような興味深い場所であることを盛り込んだのが、現状の私たちの方向です。ストーリーの概要も記載していますが、これを200字程度に縮めなければなりません。方向性としては、観光客が実際に足を踏み入れたとき、鋸山はどのように映るのか、どのような体験があるのかを書く必要があります。

本来は逆の流れになりますが、様式2『ストーリー』です。ここが肝になります。ストーリーを最初に作り、その概要を200字程度にまとめ、その骨子の部分をタイトルにするのが本来の流れかもしれませんが、逆の流れで動いております。

つまり、事業化可能なところを先に考え、魅力をピックアップした中でそれを事業化する、という流れで構成要素を挙げ、それをこれから全体的なストーリーでまとめていきます。この資料のものが最新の情報です。

ストーリーを考えるときには、「現在のハイキング」を描写し、それから、「かつての観光」で挙げた「文人墨客と浮世絵」、「江戸庶民の観光地」といったテーマでまとめます。その中で、当時の観光のメインとしては、表玄関の保田駅から上がって来る日本寺がメインルートです。日本寺境内を周遊した後に眺望を楽しむのが、主な物見遊山のルートだったようで

す。そこから、その山についての学習をしながら鋸山の成り立ちを考えていく。その地学的なものや歴史的なものを考えながら、その石について言及していく。

昭和60年まで続いていた採石産業を、地元の房州石のストーリーを作りながら、房州石が使われているものを構成要素とし、富津市・鋸南町のエリアを広げていきました。例えば、富津市では第一海堡と第二海堡の基礎で捨て石が大量投入されており、明治期から鋸山の石が大量に使われていることから、市域全体に広げることが可能であることを着眼点にしております。

先行する「石のまち」が日本遺産にもいくつかあります。令和元年度の落選したものの中にも「石のまち」があります。今あるものを合わせて全国で10件ほど申請が上がってくると思われます。

これらと鋸山で、どのように差別化が図れるかを考えた際、「すでに石の生産が終わった地域」はなかなかないことに気づきました。逆にこれはチャンスだと思います。房州石の場合、昭和に石切の産業は終了し、そこは産業遺跡として十分に楽しむことができます。石切産業が続いている場所は、それを邪魔してはいけないなどの様々な制約があります。

鋸山の場合は、江戸時代の産業遺跡の発掘もできる可能性もあります。石を削る槌の音も聞こえないので、どこか精神的なものを感じ、俗なものが逆に聖なるものという価値観の転換を感じることができます。

日本寺は現在、災害等でダメージを受けていますが、伝説上、源頼朝が訪れた時にはすでに荒廃しており、再起の祈願をした頼朝が、成就した暁に再興の事業を始めたとされます。日本寺が荒廃するたび、様々な方が再興に力を尽くしており、今回も同様に、という流れがあります。

起死回生を祈願する場所であり、避暑地としても、夏目漱石がここを訪れ、文学的な天啓を受けたような転身を図っています。作家生活のきっかけになったという自伝もあります。復活や覚醒の地であることを改めて取り上げます。

鋸山山頂で安房と上総に分かれ、「ここは難所であり、おのずから国の境だった。」とされています。山の成り立ちは、中心部に向かった圧力によって真ん中にパワーが集約しているというもので、我々もまた、鋸山によって両市町等が吸い付けられ発展していく、というストーリーにしたいと考えております。

また、鋸山は千葉県で最初の公園に指定されております。それをモチーフにした絵葉書セットがあり、「房総国境の霊峰」、「関東の奇勝」、「南総の勝景」というタイトルがありました。ロープウエーの写真や日本寺のお土産などもありました。

「便利すぎる日本」というものではなく、適度に田舎である、不便さがある、スピリチュアルである、ということが外国人受けする要素でもあります。

ただし、明鐘岬のトンネルを徒歩で歩くのは危険であること、トイレに

	<p>ついて外国人が困るかもしれないことは承知の上での活動が必要です。</p> <p>このような骨子でストーリーを構成していきたいというのが、事務局としての方向性です。これについて、忌憚のない御意見をいただきたく思います。以上で説明を終わります。</p>
高橋議長	事務局、他に何かございますか。
(富) 眞 生涯学習課長	<p>補足をさせていただきます。</p> <p>文化庁との協議の中で、やはり地域活性化計画が重要である、ということで先ほど申し上げた様式4の地域活性化計画を確定させた後、タイトルと中身について見直していこうと舵を切った次第です。</p> <p>事務局案として、タイトルはHの「房総物見遊山の聖地は石の山 ～安房と上総を結ぶ山・鋸山は自然のテーマパーク～」としております。先ほども申し上げたとおり、古においては、安房と上総を区切る山でしたが、今回は、「中心となって結ぶ山」という形で、逆に分けるのではなく、富津市と鋸南町を結ぶような山にイメージを転換するタイトルを取りました。それに沿ったHのストーリーとなっております。それについて、皆様の御意見を賜りたく思います。</p>
高橋議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、説明と補足が終わりました。これまで申請の準備をして参りましたが、途中で大きな転換があった関係上、本日、皆様にお示ししているのは最終案というわけではありません。最後まで、認定をいただけるよう最大限の努力をし、最後の一分一秒まで、という気持ちで準備を進めさせていただいております。その上は、まずはタイトルについて御意見を頂戴したく存じます。</p>
藤井委員	私どもがよく県に提出する文書に、「自然に触れあいながら、自然の中を散策しながら歴史にふれあうことができる。」という文言があります。房州石や羅漢石像群にも関連して、「歴史」という言葉を入れたほうが良いのではないかと思います。
(富) 眞 生涯学習課長	例えば、「自然と“歴史”のテーマパーク」のような形がよろしいでしょうか。
藤井委員	はい。そのほうが良いと思います。

<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>タイトルには文字数の制限がありますので、それを含めて考えなければなりません。歴史の要素も含めたいと思います。</p>
<p>藤井委員</p>	<p>それから、「千五百羅漢」や「五百羅漢」と表記がバラバラなので、「千五百羅漢」に統一していただきたい。 Hの本文で、「十州一覧の～」とき「地獄のぞき、百尺観音を経て日本寺の境内に入ると」となっていますが、「十州一覧台」や「地獄のぞき」、「百尺観音」も日本寺の境内なので、こちらも御参考いただきたく思います。</p>
<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>「日本寺の境内にある」という形が望ましい、ということですね。</p>
<p>藤井委員</p>	<p>そうですね。 これについては、よくお問い合わせもいただきますので。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございます。 ただいまの御指摘に関しては、正しい表記に修正した中で進めていきます。 他に御意見がございましたら、お願いいたします。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>今のお話に関連して。日本寺の大仏は、山から下りてきて一番下のほうにあります。千五百羅漢のほうはコースとしては上のほうにありますので、この順番を入れ替えたほうが良いと思います。</p>
<p>藤井委員</p>	<p>「日本一の大仏」と謳ってしまうと角が立つ場合があります。「磨崖仏」としたほうが良いと思います。これについても実際にお問い合わせいただくことがありますので。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございます。 他にいかがでしょうか。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>タイトルについて、特に「安房と上総を結ぶ」という考え方は、新しい見方であり、良いと思います。先ほど、「融合」という言葉で表現していましたが、そのような気持ちで新しい文化・観光の拠点として発展していく将来性も込められている、という印象を持ちました。 感想ですが、ここで言わせていただきます。</p>

鈴木委員	<p>私もワーキンググループに参加させていただきましたが、11月のシンポジウムで、「このままでは難しいですよ。」という厳しい御意見をいただきました。時間のあまりない中、様々な方の御協力をいただき開催させていただきました。</p> <p>その中で、「あれもいい。」「これもいい。」と様々な要素が出てきました。それを集めて作ったのがこの資料です。ただし、「それを削ぎ落すことが必要だ。」というアドバイスをいただきました。何でもかんでも詰め込んでしまうと核心の部分がボケてしまう。どこで訴えていくのか。意見を出し合った後にそれを削ぎ落していく作業が必要になります。</p> <p>先ほど、高梨委員からもありましたが、「安房と上総を結ぶ山」という言葉は非常に良いと思います。ただし、鋸山のこの景観を生んだのは、逆に国境だったというのがあるので、「結ぶ」というニュアンスで他に良い表現があればいただきたく思います。</p>
川名委員	<p>先ほどのHのタイトルについて、私も「自然」だけでなく「文化」という言葉を考えましたが、「歴史」という言葉が良いと思います。</p>
手塚委員	<p>皆様の御意見も含め、素晴らしいまとめ方だと思います。</p> <p>タイトルもストーリーも非常に素晴らしいものを拝見させていただきました。私もこれに賛同いたします。よろしく申し上げます。</p>
松本委員	<p>私は富津市の北側に住んでいましたが、生活において鋸山は大切な生活の一部でした。昔は「山だて」と言い、鋸山の先端と次の山などを使い、商売に利用していました。先祖も皆、山だてに使っていた鋸山ですから、私も認定に向けて協力をさせていただきたく思います。</p>
手嶋委員	<p>私たちでも考えていなかったようなことが次々に出てきて、大変嬉しく思います。特に藤井委員の日本寺に対しての想いも素晴らしいと思いました。鋸山には、私たち金谷側からの見た目と元名側からの見た目の差はあろうかと思いますが、是非、今のタイトルでお願いいたします。</p>
山口委員	<p>申請について、ヒアリング等も多々行ってきたことと思います。これで良いと思います。具体的な話をしますと、元名側が台風によって日本寺に至る道も倒木等の被害に遭っている状態です。今後の事業等で観光客への安全性なども検討していただきたく思います。</p>
川名委員	<p>数年前、日本地質学会で「県の石」を各県から、岩石・鉱物・化石の3種類ずつ選んだところ、千葉県からは鋸山の石が選出されていたと記憶し</p>

	<p>ています。記憶のことですが、もし正確でしたら、この表現も入れていただきたいと思います。</p>
(富)伊藤生涯学習課長補佐	<p>おっしゃる通りです。原稿には、「千葉県の岩石：房州石（凝灰岩質砂岩・細礫岩）」を盛り込ませていただきます。</p>
高橋議長	<p>他にはいかがでしょうか。</p> <p>他にないようですので、本日の議題は以上となります。</p> <p>冒頭でも申し上げましたが、認定を勝ち取るまで、最後まで得られる情報はすべて得て、修正を重ね、ベストな形で申請を行えるよう努めて参ります。</p> <p>それゆえ、最終的な形は事務局に御一任いただき、皆様の貴重な御意見を踏まえた上で申請したいと思います。御了解をいただけますでしょうか。</p>
委員一同	(異議なしの声)
高橋議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>御異議もありませんので、事務局として最後まで全力で取り組むことをお誓い申し上げ、進めて参ります。</p> <p>それでは、以上をもって私の議長の職は解かせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。</p>
(富)當眞生涯学習課長	<p>高橋会長、スムーズな進行を、また、委員の皆様には貴重な御意見をありがとうございました。</p> <p>皆様からの御意見を参考に、1月21日の県文化財課への提出期限に向け、一分一秒ギリギリまでブラッシュアップしていきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第7 その他 ですが、委員の皆様、何かございますか。</p>
藤井委員	<p>現状の報告をさせていただきます。</p> <p>台風での倒木等は可能な限り撤去しており、参道に面しているものは片付いてきましたが、参道のコンクリートの下が土砂崩れでなくなり浮橋状になってしまっている場所や参道が割れて通れなくなっている箇所があります。</p> <p>地元の方をお願いして撤去してもらっている場所もありますが、現状、</p>

鈴木委員	<p>業者が手一杯で山に入れない状況です。参道の修復にどれくらい時間がかかるかはまだわかりません。</p> <p>ただし、山頂に上がれないわけではなく、千五百羅漢の参道が割れてしまい、通れないという状況です。早期復旧のために何か知恵があればお貸しいただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>金谷の登山道の進捗について報告させていただきます。</p> <p>金谷側から、「関東ふれあいの道」、「車力道」、「沢コース」の3つの登山道がありますが、台風15号の際には、全コース通行止めになりました。</p> <p>「関東ふれあいの道」は、県自然保護課に100万円の予算をつけていただきました。12月の「鋸山トレイルラン」という大会に間に合わせる形で林道口までは開通している状態です。これについては、ボランティアの皆様が我々の知らないところで自発的に動いてくださった成果です。そのような方々の御尽力によって、一部危険な箇所も応急処置によって安全に通行できるようになっております。</p> <p>「車力道」は、富津市の予算をつけていただきました。市の担当者と現地確認をし、若干危険な場所もありますが、そこに注意喚起の看板を立て、近々、一般の方も通行できるようになる見込みです。</p> <p>「沢コース」は凄まじい状況です。開通できるようにするにはどうすべきか悩んでおります。他のコースとは被災の規模が明らかな違う状況です。これについては、御協力くださる様々な方と相談しながらやっていきたいと思いますが、当面は無理な状況です。</p> <p>いずれにしても、3つのうち2つのコースは開通しています。風評被害もあり、従前のお客様の数には及びませんが、少しずつ告知をしながら元の形に戻したいと思います。</p> <p>また、鋸南町の状況も伺っております。こちらもボランティアの方々と相談しましたが、ボランティアレベルではないような被災状況です。こちらも様々な方と相談して一刻も早く通行できるよう方策を考えたいと思います。何か知恵があればお貸しいただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
オブザーバー 杉森	<p>鋸山ロープウェイについて報告します。</p> <p>ロープウェイは通常通り営業しております。</p> <p>登山道を利用するお客様も多く、問い合わせを受けておりますが、通常通りの御案内をしています。</p>
オブザーバー 大塚	<p>道の駅保田小学校について報告します。</p> <p>直売所であった体育館は、被災によりかなり損害が出ており、現状復旧に努めていますが、まだまだ先が見えていない状況です。現在は校舎棟で営業を再開しております。2020年のオリンピックまでには復旧できるように、また、お客様を呼び込む努力をしておりますので、御協力をお願い</p>

<p>(富) 眞 生涯学習課長</p>	<p>いたします。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>それでは、事務局から報告します。 事業計画を御覧ください。 今後の予定です。皆様からいただいた御意見を参考にし、1月21日の千葉県への提出締め切りまでに提出。その後、県で取りまとめ、1月24日が文化庁への提出締め切りです。</p> <p>100件の日本遺産認定に向けて、残り17件となっております。県内では、富津市・鋸南町以外にも酒々井町を中心にしたもの、広域シリアル型の富里市を中心にしたものの3つが申請される予定です。おそらく、全国で昨年を上回る数の申請があると思われ、7倍から8倍の倍率が想定されます。</p> <p>提出した後、3月頃に30件程に残った候補でプレゼンテーションを行い、その後に決定という流れになるということです。認定をいただいた場合は、5月下旬に文化庁から認定の報道がされます。認定された暁には、7月に「活用推進協議会第1回会議」という流れを組んでいきたいと思えます。</p> <p>先ほどの委員の皆様様の御意見を参考に、申請書類をブラッシュアップして参りますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、「鋸山」日本遺産認定推進協議会第2回会議を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">～閉会～</p>
-------------------------	---